

高校生ICT Conference 2020

in 北海道

「新しい生活様式とICT活用法」～行動制限の時代に生きる～

開催報告書

2020年10月11日(日)13:00-17:00

【会場】：オンライン

主催

高校生ICTカンファレンス実行委員会
(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会
大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省

2020年10月14日

目 次

1.	開催概要.....	2
2.	高校生 ICT Conference 2020 地域開催.....	4
3.	高校生 ICT Conference 2020 in 北海道 開催概要.....	5
4.	主担当	7
5.	高校生 ICT Conference 2020 サミット.....	7
6.	高校生 ICT Conference 最終報告会.....	8
7.	高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	8

1. 開催概要

名称：	高校生 ICT Conference 2020 新しい生活様式と ICT 活用法 ～行動制限の時代に生きる～
主催：	高校生 I C Tカンファレンス実行委員会 (構成団体) ● 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省 (北海道) 一般社団法人LOCAL、十勝毎日新聞社
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構 (北海道) 北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校 PTA 連合会、北海道私立中学高等学校協会、北海道青少年有害情報対策実行委員会
協賛：	グーグル合同会社、株式会社ラック、グリー株式会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社メディア開発総研、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、エースチャイルド株式会社、Twitter Japan 株式会社
協力：	株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社、 (北海道) NPO 法人NEXTDAY
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2019 年度には、全国 19 拠点にて開催し、計 129 校 559 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>【本年開催テーマのコンセプト】</p> <p>近年、台風、水害などの自然災害のみならず、世界的な感染症の流行など、かつては想定できなかった事態に遭遇しています。例えば感染症の流行では、外出自粛</p>

	<p>(登校禁止含む)が長期間に及びました。未だ完全な対策が無い中で、生活様式の見直しを求められ、また社会自体も大きく変わろうとしています。</p> <p>高校生が、この環境変化をどう捉え、またどう乗り越えようとするのか、ICT活用という側面から、高校生の目線で、今ある環境の活用、また将来の期待する姿を、様々な視点から考え、紹介また提言する。</p> <p>※平成21年4月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成23年度の小学校を皮切りに、平成24年は中学校、平成25年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しいICT(情報通信技術)サービスにおいて、青少年が健全にICTを利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取り組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表(プレゼン) (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30名(各開催地により変動あり)</p> <p>募集見学者各回 30名(各開催地により変動あり)</p>
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference2020 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米田謙三(大阪私学教育情報化研究会 副会長) <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石田幸枝(公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT研究会理事・消費者団体訴訟室長) ・ 猪股 富美子(お茶の水女子大学 人間発達科学研究所) ・ 植田 威(特定非営利活動法人NPO 情報セキュリティフォーラム理事) ・ 小城 英子(聖心女子大学) ・ 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】 安心ネットづくり促進協議会</p>

〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 斎藤ビル 2 階
 TEL: 03-3562-8850 FAX: 03-3562-1180

2. 高校生 ICT Conference 2020 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

地域	開催日	開催方法	システム	備考
北海道	10月11日	オンライン	Zoom	
茨城	10月27日	オンライン	Google Meet	
神奈川	10月17日	オンライン	Zoom	
新潟	9月13日	オンライン	Zoom	
石川	10月11日	オンライン	Zoom	
長野	10月17日	オンライン	Zoom	
静岡	10月18日	オンライン	Zoom	
大阪	9月6日	オンライン	Zoom	
奈良	10月4日	オンライン	Zoom	
高知	10月24日	オンライン	Zoom	
福岡	10月25日	ハイブリッド	Zoom	
佐賀	10月4日	オンライン	Zoom	
大分	10月10日	オンライン	Zoom	
鹿児島	10月17日	オンライン	Zoom	
オンライン	11月1日	オンライン	Zoom	
サミット	11月15日	オンライン	Zoom	

東京サミットへは各地域で独自で実施した情報モラル・リテラシー啓発サミットからのオブザーバー参加者を招待予定。(サミット熟議のみ参加) ※2019年度実績：福井

3. 高校生 ICT Conference 2020 in 北海道 開催概要

概要	<p>高校生、教員、25名の参加者を得て、Zoomを使ったオンライン形式で、「新しい生活様式とICT活用法」～行動制限の時代に生きる～をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>なお、北海道においてはZoomのYouTube連携機能を使用してYouTubeLiveによる視聴も可能とし13名の参観者がいました。(視聴URLは関係者のみに周知しており一般公開していません。)</p> <p>【熟議】</p> <p>司会進行・主旨説明</p> <p>一般社団法人 LOCAL 三谷 公美 様</p> <p>高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶</p> <p>総務省 北海道総合通信局 情報通信部 電気通信事業課長 島 義晴 様</p> <p>新型コロナの拡大や5Gサービスの開始から様々なところでデジタル化が進む一方、SNS利用での被害や企業側のデジタル化への対応も必要との現状について触れ、高校生の柔軟な発想による提案を期待する旨の挨拶がありました。</p> <p>第一部 事業者による講演</p> <p>ByteDance 株式会社 (TikTok 運営会社) 金子 陽子 様</p> <p>日々の学習における TikTok の活用方法として、バスケットのプロコーチやバイリンガルのクリエイターによる投稿、研究所や美術館等による珍しい投稿など、コロナ禍でも活用できる例を説明いただいた後、利用における危険を避けるノウハウについてお話をいただきました。</p> <p>アイスブレイク、自己紹介</p> <p>5つのグループに分かれ、アイスブレイクの後、各グループ内で自己紹介などを実施しました。</p> <p>第二部：熟議「新しい生活様式とICT活用法」～行動制限の時代に生きる～</p> <p>グループに分かれて運営のファシリテーターが熟議を始め、活発な熟議が行われたタイミングでグループによっては高校生がファシリテーターとなり熟議を行いました。Zoomで熟議した結果については書記がGoogle docs(ドキュメント)を使用して打ち込みグループの参加者が共有できるように整理分類しまとめて行きました。</p> <p>第三部：グループ発表</p> <p>各グループともプレゼンテーションソフト等を活用して3分程度の発表を行いました。(詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください)</p>
----	---

	<p>その後、参加生徒により、11月15日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、函館ラ・サール高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>講評</p> <p>北海道大学 重田 勝介 様</p> <p>コロナ禍における大学の現状と、ネット上にはオープンな教材がいくつもあることが紹介され、学習環境は学校だけに留まらないとのお話がありました。</p> <p>講評の後、閉会しました。</p>
参加校：	<p>北海道石狩南高等学校</p> <p>北海道札幌東豊高等学校</p> <p>札幌聖心女子学院高等学校</p> <p>札幌市立札幌旭丘高等学校</p> <p>函館ラ・サール高等学校（順不同）</p>
日時：	2020年10月11日（日） 13:00-17:00
場所：	オンライン ZOOMによるリモート開催（一部YouTubeによる参観）
参加人数：	<p>熟議参加生徒 19人</p> <p>見学者・関係者 6人（Zoom）13人（YouTube）（教員・教育関係者・その他）</p> <p>合計：38人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>リモート開催による熟議の円滑化を図るため1グループに1名の書記を配置している。</p> <p>【グループ名：1】5名</p> <p>北海道石狩南高等学校1年男子、北海道札幌東豊高等学校3年男子、札幌聖心女子学院高等学校1年女子、札幌市立札幌旭丘高等学校2年男子、函館ラ・サール高等学校2年男子</p> <p>〔ファシリテーター〕</p> <p>北海道情報大学 教授 高井那美</p> <p>〔書記〕</p> <p>一般社団法人 LOCAL 八巻正行</p> <p>【グループ名：2】4名</p> <p>北海道石狩南高等学校2年男子、北海道札幌東豊高等学校2年男子、札幌聖心女子学院高等学校2年女子、札幌市立札幌旭丘高等学校1年男子、</p> <p>〔ファシリテーター〕</p> <p>北海道情報大学 院生 高橋幸生</p> <p>〔書記〕</p> <p>一般社団法人 LOCAL 西原翔太</p>

	<p>【グループ名：3】4名 北海道石狩南高等学校1年女子、北海道石狩南高等学校1年女子、北海道札幌東豊高等学校3年男子、札幌聖心女子学院高等学校2年女子、</p> <p>〔ファシリテーター〕 カンファレンス事務局 橋本稚葉</p> <p>〔書記〕 一般社団法人 LOCAL 蒲田拓也</p>
	<p>【グループ名：4】3名 北海道石狩南高等学校1年男子、北海道石狩南高等学校2年男子、札幌市立札幌旭丘高等学校1年男子</p> <p>〔ファシリテーター〕 一般社団法人 LOCAL 佐藤佳祐</p> <p>〔書記〕 カンファレンス事務局 橋本将斗</p>
	<p>【グループ名：5】3名 北海道石狩南高等学校2年男子、北海道石狩南高等学校1年女子、函館ラ・サール高等学校2年男子</p> <p>〔ファシリテーター〕 NEXTDAY 木原駿</p> <p>〔書記〕 NEXTDAY/一般社団法人 LOCAL 佐々木伸幸</p>

4. 主担当

北海道総合通信局 他協力者	事務局（参加取りまとめ、連絡）
一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 一般社団法人 LOCAL NPO法人 NEXTDAY 北海道総合通信局 他協力者	企画、運営、挨拶

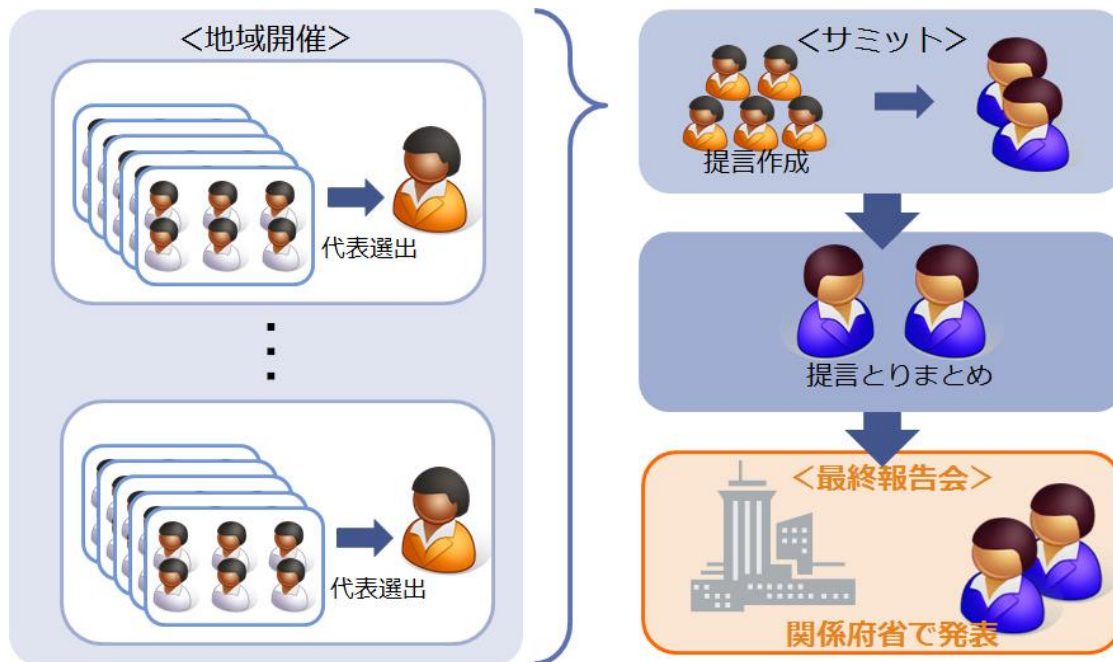
5. 高校生 ICT Conference 2020 サミット

高校生 ICT Conference 2020 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2020 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏む。



7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2020 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2020 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以上